

K a z a r i K a n z a s h i

# 鍔かんざし

Takashi Miura

## 三浦 孝之

かざり工芸三浦 4代目

- 1996年 墨田区伝統工芸保存会入会
- 2001年 東京都青年優秀技能知事賞受賞
- 2006年 すみだマイスター認定
- 現在 墨田区伝統工芸保存会会員

### ◆受賞歴など

- 2001年 東京都青年優秀技能知事賞受賞
- 2004年 銀座松屋 和の座ギャラリーにて個展を開催
- 2007年 平成中村座ニューヨーク公演にて製作実演
- その他、二人展・グループ展など多数開催

かざり

## 鍔かんざしとは？

かんざしの歴史は長く、古くは縄文時代から見られ、当初は身を守るお守りとしての役割を果たしていたとされています。

また、自然の草花には強い生命力が宿ると信じられ、髪に着けられるようになったのがはじまりです。

尚、現代のように装身具として役割をはじめたのは、日本髪が結われるようになった江戸時代以降のことで、

当時、人気を博した遊女や歌舞伎役者の結髪が流行りとなり、庶民へと広まっていきました。

数百種類にも及んだ日本髪に伴い、櫛やかんざしも無くてはならない存在となり、女性の髪を彩るようになりました。

鍔かんざしの主だった素材は「金」「銀」「銅」「真鍮(しんちゅう)」などの金属を巧みに組み合わせ構成されています。

## 技へのこだわり

かんざしが作り上げられるまでには、「下絵」「切り回し」「たたき彫り」「打ち出し」「ロウ付け」「磨き」「組み立て」と実に様々な工程があります。分業制によって作業をされている工房も多いですが、同氏は全ての工程の作業を行っています。そのうち特に強みを持つ技術が「切り回し」と「組み立て」です。

- ・正確で繊細な「切り回し」
  - ・長年に渡り磨かれ続けてきた感性が光る「組み立て」
- の2つの優れた技術があることで、高い表現力と独創性を演出しています。ぜひ、優美で粋な作品の数々をご覧ください。



右：桜びら簪  
・雑誌「和楽」表紙掲載  
左：桜一輪挿し



銀製・菊平打ち  
・すみだモダン認証商品